



# やまな

袋井市立山名小学校  
学校だより No.12  
令和元年10月7日発行

## 【10/1 朝会 高橋校長の話より】

先週の土曜日、エコパスタジアムでラグビーの日本代表チームが歴史的な勝利をおさめました。ラグビーに関係することをお話したいと思います。ラグビーが始まった英国でのお話です。

英国にはパブリックスクールというのがあります。その1つにラグビー校があります。フットボールが大変盛んな学校だったようです。1820年（日本では江戸時代）ごろの話です。そのころは、百人近い生徒が二組に分かれて、ボールを蹴り合っていたようです。1つのボールを追いかけながら、全員があっちへ走り、こっちへ走り楽しんでいただろうと思います。そんな時、ボールがよく飛ばば動きも大きく楽しいでしょうけれど、彼らのボールはどうもあまり飛ばず、転びもしなかったようです。今のボールのように皮やゴムのボールでなくて、4枚の牛革で縫い合わせた中に、毛糸や布きれを入れたものだったようです。想像しただけでも、あまり飛びそうにはありません。それに重かったものと思われる。

そこで、もっと飛ぶボールがほしいと考えたラグビー校の生徒たちは靴屋のギルバートさんに泣きつきました。ギルバートさんは、彼らから頼りにされていることから「なんとか、よく飛ぶボールはできないかな」と考えに考えました。その当時は、まだゴムチューブなどない時代です。でも、飛ぶボールを作りたい、作りたいという一念は、とても素晴らしいことを思いつきました。これこそ「必要は発明の母」です。ギルバートさんはそのボールの制作にとりかかりました。

さて、そのボールとはどのようなものだったのでしょうか。それは病気の時に使う氷嚢をもとにしたものです。氷嚢というのは熱が出た時、氷を入れておでこを冷やすものです。あの氷嚢に空気をいっぱい入れて、それを皮で包めば、というのがギルバートさんの考えでした。さて、その当時の氷嚢はというと、豚の膀胱で作られていました。その膀胱を取り寄せ、空気をいっぱい入れ、皮で包んでみました。皮で包んで縫い合わせるのは、仕事が靴屋さんですからお手のものです。ところが、その形がどうしても、丸くならないのです。そのはずみ具合といい、軽さといい、申し分なく、このボールは素晴らしいと思うのですが、どうしても形が気に入りません。

それでも捨てるのにはしのびがなく、彼らに試してみないかと渡してみました。ところが形が少しくらい変でも、とにかくもっと軽くてよく飛ぶボールが欲しかった彼らには、それが大好評。「おじさんすごいぞ、ありがとう」と大喜びです。丸いボールは持つて走りにくいけど、楕円形のボールだと持ちやすいという利点もあったのですから。

また、そのボールができてから3年目、少年たちがフットボールを楽しんでいる時、エリスという少年がボールを受けたかと思うと、そのボールを持ったままゴールへ走り込みました。もちろんフットボールではボールを持って走るのは違反ですが、それも面白いじゃないかということでルールの改正案が持ち上がり、今のようなラグビーが誕生したとい

います。

事の真偽の定かではないところもありますが、生徒のためによく飛ぶボールを作りたいと考えたギルバートさんのボールがラグビーを誕生させたと言えます。

## 【PTA奉仕作業】

9月28日(土)には、第2回目のPTA奉仕作業を実施しました。1・3・6年生保護者の皆さん、PTA施設部員の方々が一生懸命に作業に取り組んでくださいました。また、子どもたちも、刈った草を一生懸命集めたり運んだりして大活躍でした。

皆様のおかげで、校庭周辺がきれいになりました。本当にありがとうございました。

## 【山名小を語る会・第2回学校運営協議会】

9月27日(金)に、山名小を語る会と第2回学校運営協議会を開きました。当日は、地域の代表の方や学校運営協議会委員の方々が来校し、授業参観後に話し合いを持ちました。山名小を語る会では、「学校評価」について協議した後に、学校や子どもたちの様子について討議しました。また、第2回学校運営協議会では、「やまなスタッフ(学校ボランティア)」について協議しました。

これからも地域の方々と連携しながら、よりよい学校づくりに努めていきます。

## 【子どもたちの活躍】 \* 敬称略

### <磐周地区児童生徒理科研究作品審査会>

特選	2年	吉村蓮太郎	金賞	3年	大橋 杏	
銀賞	6年	鈴木 誉史	6年	田中 希和	3年 山本 莉子	
銅賞	6年	梶本 真菜	6年	川崎 紗蘭	5年 堀尾 洪史	4年 後藤 歩夢
	4年	増田 和奏	4年	勝俣 晴	4年 真中 泉	3年 古田ゆりか
	2年	後藤 穂佳				

### <磐周地区読書感想文コンクール>

特選	6年	井田 朱虹	4年	小島 聡太	2年	田中 秀歩
----	----	-------	----	-------	----	-------

## 多発する不審者情報に帯する注意喚起

今年度、袋井市内で認知した不審者情報が多発傾向にあります。今後も不審者情報事案が発生するのではないかと心配しています。学校では、子どもたちに下記の点について指導をしました。御家庭でも、改めてお子さんと確認をしていただくようお願いいたします。

### <不審者に遭遇しないために>

- 外に行くときは、必ず行き先を言います。
- 一人で遊びません。一人で帰りません。
- 普段から、その日にあったことを必ず家の人に話します。
- よく考えて行動します。

### <不審者に遭遇したときは>

- 知らない人にはついていきません。
- 知らない人の車に乗りません。はつきり断ります。
- 「助けて」と大声で叫びます。
- 怖いことがあったら、すぐ逃げます。
- 大人の人に知らせます。すぐ話します。

